

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375000300		
法人名	(有)ハートフルハウス		
事業所名	ハートフルハウスグループホーム「よろこぶ」		
所在地	愛知県長久手市宮脇807番地		
自己評価作成日	平成24年1月3日	評価結果市町村受理日	平成24年3月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケアウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング9階		
訪問調査日	平成24年1月23日	評価確定日	平成24年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家族会を年4回開催し、入居者、家族、職員との交流のみならず、家族同士の関係を深める場となっている。 職員の利用者に対する思いが深く、外出時やイベント時にボランティアでの参加も多く見られる。重度化により全員での外出が難しくなっているが、誕生月に家族と相談をすなじみの場所や帰宅の援助をおこなっている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは築100年以上の古民家を利用している。その雰囲気に合わせて後付けのリビングでは、床暖房や柔らかい光の照明を使用し、必要に応じて木の手すりを増設している。職員は高齢化や重度化する入居者を以前と比較せず、現状を受容し、現時点の気持ちや意向を理解して介護計画に盛り込み、心のこもった本人本位の介護に努めている。また、介護方法の繰り返しや言葉かけ、態度から熱い思いが感じられ、家族からも信頼を受けている。法人事業所が近いので訪問入浴や看護師の訪問の援助が得られる。看取りの経験もあり、終末期へ向けて繰り返し家族の意思を確認し、ホームの力量と合わせて最期まで相互に悔いが残らぬよう方針を共有している。外観が施設と認識しにくいとの意見から、子ども達との交流会を機に地道に地域との関係づくりが大切と感じている。将来、法人で実施している餅つき大会をホームの庭でも実施したいとの思いがあり、協働し助け合いながら地域に根付いたホームを目指している。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「よるこんぶ改善2011」とハートフルハウスの経営理念を掲げ各担当者を決め、担当者を中心に取り組めるよう努めている。	理念である「よるこんぶ改善2011」は現場の課題を基につくられており、3項目「入居者様への挨拶と接し方」「季節を感じる生活の実施」「環境整備」を掲げている。項目ごとに担当者を決め、入居者に寄り添い、大切に思いながらも節度ある介護を目指し、周知徹底を図っている。毎年3月までに次年度分を話し合っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度の運営推進会議において地域の方々を招いての会を開くことができた。屋内に入って頂くまでには至らなかったが今後も継続していきたい。	自治会に加入している。日本舞踊や足つぼマッサージ、フラダンスのボランティア訪問もある。法人を通じ看護や専門学校の実習生を受け入れ、外部からの刺激を取り入れている。運営推進会議の中で、「ここがグループホーム」と認識されていないとの話から、「子どもと一緒に楽しめるイベント」の助言を得て、秋に畑のさつま芋掘りを試みた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度法人と地域密着型サービス2事業所の運営推進会議を兼ねて、地域の方にも呼びかけ認知症講演会を開催した。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年3月の家族総会にて報告・意見を多々頂いている。職員への報告はほとんどなく担当者以外内容が把握できていないと思われる。	会議には自治会長、市職員、地域住民代表、民生委員、家族代表、オーナー、職員等の参加の下、年4回開催している。報告やイベントに加え、自由な意見交換の場を設けている。家族会総会と併催したり、ホーム見学で現状を見てもらっている。出された意見はすぐに話し合い、子どもを交えた近隣の方々との交流会は11月に実施し、継続していきたいと考えている。年1回、会議内容をまとめたものを総会の時に説明し渡している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長久手市開催の介護事業所連絡会での意見交換の場がある。	長久手市福祉課へは報告、手続き、書類、相談等何かあれば足を運び、顔馴染みの関係にある。市が開催する介護事業所連絡会に出席して意見交換している。入居希望者へは市内グループホーム間で連携して対応することもある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保上やむを得ない場合にはご家族の同意の上行っている場合もあるが、夜間以外は施錠をせずいつでも誰でもが訪問できるようになっている。	安全を確保しつつ自由な暮らしの大切さを理解し、玄関や出入り口は夜間以外施錠していない。契約書で身体不拘束を明示し、職員もその弊害は理解している。転倒や転落防止のため、また、家族の希望でベッド柵を使用している方もいるが、様子を見ながら検討を重ねている。家族の提案で皮膚を傷つけないよう軍手を使用している方もいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は勉強会を行う機会がなく職員全体で学ぶことがなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は勉強会を行う機会がなかったが必要な入居者が活用できるような支援・協力をしている。(成年後見制度 入居者2名 日常生活自立支援事業 入居者1名利用中)		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご本人、ご家族へ契約書、重要事項説明書を元に説明し同意を得ている。また、契約内容変更時は個別、または家族会等において説明、同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や家族会、個別援助計画更新の面談時にコミュニケーションをはかり運営に反映するよう努力している。	年4回の家族会ではバーベキュー、回転寿司、大掃除で食事を共にし、総会では年間行事予定とスライドショーで1年間の様子を伝えている。面会時等、機会を見つけ話しやすい雰囲気づくりに努めている。以前発行していたホーム便りは写真と共に行事の様子が書かれ好評だったが、現在休止しており、早期再開を目指している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度会社より個別に意向調査を実施し意見を反映している。	全職員の考えが反映できるよう、昨年8月より自由に気づきや提案を記入し、意見交換できる「提案ノート」を休憩室に設置した。会議の議題にしたり、急ぐ事柄は管理者の即決で実行される。リフレッシュ休暇の導入や勉強会の開催、各種案内を掲示し希望者の外部研修参加、法人の年1回の意向調査があり、働く意欲の向上、刺激に繋がっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	前年度より当事業所はリフレッシュ休暇を取り入れ、全職員の希望が叶うよう努力している。ハートフルハウス安全衛生委員会にて環境整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外への研修の参加を行っている。事業所のレアな悩みに応えるべく研修の要望に取り組んでいたりと、勉強会や講習会の案内を掲示し職員皆が参加できる機会がある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は行えていない。		
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望の本人やご家族にまず施設内見学と他入居者の状態を知っていただき雰囲気を分かっただけ。その上で面談を実施し疑問点や不安点を聞き何か意見等あれば応える様に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規に入居希望があった時に満床の場合は長久手市内のグループホームに入居希望者の紹介をし法人を超えた協力体制を作っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時に頼り、助言を求める等必要な存在だと伝えている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来所された時には日頃の様子を伝え情報を共有するようにしている。日常会話などから教えて頂く事も大変多い。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生月に職員がマンツーマンで馴染みの場所へ連れて行ったり、自宅に帰る手助けをしている。	誕生月には職員と入居者が一対一で、本人の馴染みの場所へ外出することを企画し、自宅への送迎や買い物、外食等を支援している。自宅へ電話したり、行きつけの床屋へ出かける方もいる。よくコーヒーを飲みに出かける近所の喫茶店は車椅子でも快く対応してもらえ、ホーム入居後の馴染みの場所となっている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性などを考慮した座席配置とし、まわりを思いあったり刺激しあう関係が築けている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域代表として運営推進会議への参加やイベント事への参加をして頂いている。また入居施設や介護用品、相談事にもお答えできる関係が続いている。		
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示のできる方はマイペースに暮らし、必要な時には援助をしている。重度化により本人の意向を聞くことは難しいが、気持ちをくみ取り、また家族の思いを反映し実践に努めている。	事前の情報提供で生活歴、生活環境等を知り、入居後に得た情報をケース記録に書き足し、その人らしい暮らし方の支援に努めている。意思表示の難しい方には、声かけを工夫したり、表情や動作を観察するなど、試行錯誤を繰り返しながら職員は一人ひとりの気持や意向の汲み取りに努めている。得た情報はプラン見直し前に更新し、現状に沿った介護の統一に心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人またはご家族からの聞き取りにより把握できるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録は出勤者全員が必ず記入し1日の過ごし方の把握をしている。また朝はバイタルチェック(血圧、脈拍、体温、SpO2)を実施し入居者の体調管理をしている。排泄状況もわかりやすくチェック表に記載している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者の担当が入居者本位に考えた個別援助計画(案)を作成。その後全職員が目を通しご家族、各職員の意見等を取り入れ個別援助計画を作成している。	職員は担当制をとっている。担当職員が入居者の立場になって考え、計画案を作成している。全職員に回覧し、会議で意見や気づきを検討し完成させている。3カ月毎に見直し、基本情報やアセスメント要約表を更新し、計画が現状に即したものとなるよう多様な視点からの情報を活用している。家族には説明し意向も聞いている。最新計画はケース記録に入れ日々のケアに活かしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に即したプランを作成し活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の訪問入浴の利用や隣接のデイサービスのレクリエーションへの参加をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日本舞踊、足つぼマッサージ、フラダンスなどの方々が継続してボランティアさんが継続して来て下さり、それを楽しみにしている入居者様がいる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回永井内科と田村歯科の往診がある。緊急時には適時連絡のつく状態になっており、主治医の往診を受けている。 ご家族が希望される専門医の往診や受診を継続している。	月2回、内科や歯科の嘱託医の往診がある。入居時に嘱託医のことを説明し、専門医以外は嘱託医をかかりつけ医に変更するようお願いしている。専門医の受診には原則家族にお願いしているが、状況によっては家族と相談のうえ職員が対応することもある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日定期的に法人内の看護師が立ち寄りバイタル表を確認し、入居者の状態を把握している。それ以外にも入居者に医療行為(摘便や傷の処置など)の必要があれば対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個々に作成した情報シートを利用し病院との情報交換に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会において話し合う機会を設け、個々の家族の思いを聞き同意書を頂き、方針を共有している。また必要に応じてかかりつけ医への相談を行い入居者ご家族との面談にも応じて頂いている。	毎年、家族会の総会時に「重度化した時の確認書」でターミナルケアについてアンケートをとり、その都度同意書の再確認を行っている。看取りの経験があり、高齢化や重度化が進む中、家族と面談を繰り返し、家族の意向に配慮してホームとして対応できることを行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は訓練への参加を行っていない。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は訓練を行っていないが、運営推進会議を通して地域の方に協力の呼びかけを行っている。	今年度は避難訓練の実施には至っていない。運営推進会議のメンバーには、災害時における協力依頼をしている。備蓄品については、入居者用の防災頭巾、レトルト粥、水、レインコート、メガホン、ヘルメット、紙おむつ等を準備している。	今年度は避難訓練の実施には至っていないことから、実施にむけた取り組みに期待したい。
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個々の入居者に合わせた声掛けを行い自尊心を傷つけないように心掛けている。 ・必要に応じて同性介助を行っている。	ホームの理念にもある「目上の方だということを忘れない言葉遣いをする」ことを職員に徹底している。トイレへの声かけは、小声での誘導を心がけている。入居者の前で、職員同士で連絡を取り合う場合は、職員間でしかわからないような連絡語を使い、入居者のプライバシーを守るよう工夫している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定ができる様な声掛けを心掛け、こちらの思いを押しつけない様に配慮している。だが、重度化により本人の意思決定困難者が多くなり、わかる力に合わせた働きかけができていない。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、日中、就寝と希望を聞き休む様になっている。日中散歩にお誘いし希望があれば外に出かけたりする。だが、意思決定が難しく、職員のペースを優先しがちとなっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に入居者の散髪は訪問美容師にお願いしており本人や家族の希望を取り入れた髪型にしている。また、入居者の中には毛染めをしたり、散髪をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化により一緒に家事を行うことは困難だが、買い物に行く際にできるだけ希望を取り入れている。また手伝いの出来る方はマイペースに参加されている。	食材の買い出しは週2回、職員が行っている。高齢化、重度化が進んでいるため、軟食を業者から購入し温めて、ホームで作るおかゆ、味噌汁と一緒に朝、昼食に提供している。夕食はホームで入居者の希望の物を提供できるように配慮している。食の進まない入居者には、果物やお菓子等で不足分を補うように工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事、水分摂取量を毎日チェックし、過不足の内容に心掛けている。 ・栄養のバランスや一人一人に合わせた食事ができているとは言えない。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・月2回の歯科往診にて、個別の指導を受けている。 朝食前、昼、夕食後ほぼ全員の口腔ケアを行い口臭の気になる方はいない。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄チェックを24時間表で管理し排泄パターンを把握するよう努力している。そのことにより9名中7名がトイレでの排泄ができています。	重度化が進んでいるため、紙おむつを使用している入居者もいるが、昼間はリハビリパンツやパットを使用し、声かけや誘導により、できる限りトイレでの排泄に取り組んでいる。介助が必要ない入居者は自分のペースで生活しているため、不用意な声かけはペースを乱す恐れもあるので、声かけには気をつけている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段より食物繊維や乳製品などが取れる様に食事の内容を気をつけている。歩行困難な方にもできるだけ歩いて頂き運動不足とならないよう働きかけ、それでも排便のない日は坐薬を使用し排泄できるよう促している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆず湯や菖蒲湯など季節を楽しめる様な入浴を実施している。また会話を楽しんだりするなどなるべく安心して入浴できるよう支援している。	毎日、午後1時～5時の間で3～4人を目安に入浴介助している。入浴チェック表を参考にして声かけをしている。法人内の訪問入浴を週1回利用したり清拭を併用して、入浴困難な入居者に対応している。また、リフトを使用して入居者の負担にならないよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節の移り変わり、また個人の体調により身体に負担にならない様に(クッション等使う方は使い)安眠できる体位を保てる様支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬箱に服薬内容チェックシートを貼り誤薬防止に努めている。 ・主治医、NSと連携を密にし、体調の変化に合わせた服薬の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常での細々とした事(机、食器拭き、洗濯物たみ等)手伝って頂いたり、GH内での行事や、職員との買い物、喫茶店でのコーヒータイム等楽しんで頂ける様に支援している。また毎月ランチ外出日を設け食べたいものを決めて頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・季節が感じられるように入居者の状態を見ながら買い物への同行や散歩、お出かけ行事を実施し外の空気に触れられるよう支援しているが、その日の希望にそってとは言えない。 ・誕生月には家族と相談しその方のなじみの場所へ出かけたり、帰宅援助を行っている。	高齢、重度化が進み入居者全員が散歩に出ることは困難な状況になっている。神社に初詣でに出かけた際は、喫茶店にも寄るようにしている。また、月1回のランチ外食や花見などで出かけるようにしている。「海の幸を食す会」として知多へ、ボランティアの協力を得て、外出することのできる入居者で出かけたが、ホームに残る入居者にも、食事の際に海の幸を楽しんでもらった。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には普段は金銭を入居者に持たせていただくことはしていない。ただ、お出かけした際には入居者と土産コーナーなどを回り希望がある入居者には土産物が買える様に支援している。一名の軽度の方のみご家族と相談の上、自分でお金を支払えるよう努力している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があれば取り次ぎ、また電話をしたい申し入れがあった場合は行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングにゆったりと過ごせるソファを置き、くつろげるように配慮している。 ・壁には手作りのカレンダーや日めくりを掛け、日にちやその日の予定を認識している様にしている。	食堂は床暖房で室内は温かく、入居者はテレビを観たり、軽い運動をしたりと、寛げる空間となっている。壁には大きな模造紙で手作りのカレンダーを毎月作り、スケジュールを書き入れている。和室の居間は、日本舞踊やフラダンスなどのイベントに使用している。玄関は日中は開錠し、夜間は防犯のため施錠している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の方は基本的にはリビング(食堂)で過ごされるが、状態に応じて居室、和室、テラスを使用し居場所の工夫をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には本人の使い慣れたものや好みのものを置いている。また入居時だけでなく、個別面談などにおいて家族と相談して今の入居者にとって最適な住環境を整えるよう工夫し、若いころの写真や家族の写真を飾ったりしている。	居室は古民家を改装しており、和室、洋室や広さも様々である。ベッド、エアコン、照明、カーテンは備え付けとなっている。位牌を持ち込んでいる入居者もあり、入居前の生活を続けている。入居時に家族には、入居者の若い頃の写真を持ってきてもらうようお願いしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部を初めから過ごしやすい環境とするのではなくADLの低下に応じて住宅改修をすすめている(浴槽を低めのものへ入れ替え、リフトと手すりの設置)		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム よろこんぶ

作成日: 平成24年3月20日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	入居者様のペースではなく、職員のペースを優先してしまっている。	業務を優先しない。	家事等、入居者様もできることは一緒に行っていく。	12ヶ月
2	49	重度の方と軽度の方の差が大きく、外出する機会が少ない。	入居者様を二分しての活動。	外出できる方は定期的な外出を行い、重度の方は安全な生活、寄り添う時間を作っていく。	12ヶ月
3	2	近隣の方や地域の方々に、グループホームという事を周知されていない。	近隣の方々と関わりを持っていく。	運営推進会議等を通じて近隣の方々を巻き込み施設内に入って頂く企画をたてる。	12ヶ月
4	19	前年度は職員の入れ替わりが多くご家族との関係づくりができなかった。	ご家族との関係を築いていく。	来所時や外出時は積極的に話す。担当職員以外の職員とご家族の関係づくり。家族主体の家族会を実施する。	12ヶ月
5					ヶ月
6					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。